

子どもを水の事故から守るために

出典「No More 水難事故 2022 川の中や水際などにおける水難事故を防止するための対策 (公益財団法人 河川財団)」

水難事故件数の約半数は夏休みが含まれる7～8月に集中しています。夏休みは家族でバーベキューやキャンプをしたり、釣りに行ったりと河川に近づく機会が増えます。子どもたちが河川に対する正しい知識を身につけ、安全に留意したうえで河川に近づくように家庭でも確認をお願いします。

中学生以下の子どもの水難者

子どもの水難死亡事故

<2003～2021>



中学生以下の子どもの水難者数は全体の **1/4**

子どもの水難死亡事故の約6割は「河川」と「湖沼池」

行動区分別の水難者数 (人)

<2003～2021>

川遊び (遊泳)	890
魚とり・釣り	712
ボート等の遊び	613
川遊び (遊泳なし)	451

川遊びや魚とり、釣りをしているの事故が多い。川の近くを歩いていて足を滑らせての事故など、**水際等の陸域にもリスクがある。**

水難事故が多発している主な河川 (件)

<2003～2021>

琵琶湖	117
長良川	100
多摩川	64
相模川	48
木曾川	42



**ライフジャケットを着用しよう！
頭部が水面から上に出る！**

全国的にも **長良川** や **木曾川** の水難事故の件数が多い

校長先生より

夏休みも10日余りが過ぎました。子どもたちは、笑顔で元気に過ごしていることと思います。キャンプやバーベキューなど、夏の思い出作りに出かけることの多い夏休み…、子どもたちは好奇心旺盛で自然にとっても興味をもっています。河川など遊びに行くときには、急な増水の危険があることや水際にも危険が潜んでいることを理解し、お子さんから目を離さないようにしてください。楽しいはずの夏休みの思い出が悲しいものにならないように十分に気をつけていただきたいと思います。